

第3回 新県立奈良病院整備検討委員会 概要

- 1 開催日時 平成23年2月15日（火）午後2時30分～4時00分
- 2 開催場所 公立学校共済組合 奈良宿泊所 春日野荘 2階畝傍
- 3 出席者 【委員】新県立奈良病院整備検討委員会委員 12名
【事務局】医療政策部新奈良病院建設室
- 4 議題
 - (1) 新病院の基本構想について
新奈良病院整備に向けたアンケート結果の概要 <資料1>
新病院の整備に向けた構想の考え方 <資料2>
 - (2) その他 <参考資料>
- 5 公開・非公開の別
公開（傍聴者 3名）

<主な意見>

I 病院機能について

- 感染症医療、精神医療は政策医療であり、一般的に不採算となる事が多く、緩和ケア医療については、県としてやる必要があるのかどうかの判断が必要。
新病院がどこまで政策医療等をやるかは、周辺の医療機関との関係で変わってくるのではないかと。
- 感染症医療については、どこまで診るかを定義する必要がある。パンデミックへの対応については、県全体の問題として考えるべき。
- 感染症病床は、重症例にも対応できる設備が必要。
- 精神医療については、合併症や急性期を診る体制が必要。慢性期はほぼ満たされているが、急性期・合併症についての対応は非常に難しい。
緩和ケアはどこまで診るかが難しい。緩和ケアだけのための入院となると議論が必要。
- 身体合併の精神科救急に関して、経営が大変だということはないが、救命、合併症医療に思いのある医師が必要。
- 緩和ケアは、ユニットとしてなら、ある程度病床数が必要。一般病棟の中のユニットとしての緩和ケア設置をも含めて検討する必要がある。
- がん患者が増えており、がんの外来棟をつくる病院も増えている。化学療法のあり方を次世代の病院機能を念頭に検討する必要がある。
- トップアスリート等の治療を行うスポーツ医学、臓器移植についても議論いただきたい。

- 臓器移植は増えてきており奈良県でも出来る用意は必要。しかし、技術を持った医師が移植が減多にない病院に居続けるのか疑問。
- 臓器移植は、すぐに始められるものではない。10年くらいのスパンで、準備期間が必要。
- スポーツ医学は、ある程度の規模、スタッフがいないと、高い技術を保つことが難しい。整形外科は、経営的に良く、民間が積極的に取り組んでおり、県として取り組む必要があるのか。
- 県立奈良病院の小児では、2次・3次医療に必要な救急について、京都府の南部をかなりカバーしている現状がある。新病院整備の際には、京都府との連携もしっかり検討していただきたい。

II 人材養成について

- 患者のみならず、医師・看護師を引きつける病院となるためには、高い教育機能が必要である。
卒前教育においても、地域の基幹病院での教育が必要とされており、その機能の多くを新奈良病院が担うことにより、若い医師がここで働きたい、患者さんのために尽くしたいと決心できる病院を目指して欲しい。看護師教育も同様である。
- 人材養成は、病院内の職員だけにとどめるのではなく、地域の医療機関にも門戸を開いて、地域の医療水準の向上を目指す。
- 看護師、女性医師など、女性が家庭と職場・研究を両立してやれるかということ、管理者は考える必要にせまられている。
コンビニ・駐車場など小手先のことでなく、ライフスタイルを考えたらうで、職員がより安心して働き、継続して働け、復帰を受け入れられる、働きやすい環境をつくる必要がある。
- 子育てをしている女性医師も当直をして、医療を成り立たせなければならない時代がくる。夜間保育や病児保育が当たり前にできるようにしなくてはならない。

III 身近な医療の提供について

- 天理、五条などは高齢化が非常にすすんでいる。これからは、奈良、香芝で、25年もすれば75歳以上が50～75%に伸びてくる。喫緊のテーマとして、地域医療包括ケアは必要。
県がやるというより、県と地元医師会で連携していかないとできない。
- 現在は、それぞれの地域で取り組まれている。県がやらなくてもそれぞれの地域のあり方を支援していただければと思う。

IV その他

- この委員会での意見が、どういう形で取りまとめられるのか。
- 委員会で議論された内容を十分尊重し、大勢を踏まえた上で、県としての考え方を最終決定したいと考えている。